

特別研修終了届兼報告書

学院長 殿

所 属 文学部コミュニケーション学科

職 位 准教授

報告者 相澤 一

私は、2022年度大学教員特別研修員として学外研究に就いておりましたが、以下のとおり終了いたしました。

つきましては、「フェリス女学院大学教員特別研修制度に関する規程」(2000年5月22日制定)第11条第2項の規定に基づき、研修成果に関する報告書を提出いたします。

1. 研修テーマ・研修先等

研修テーマ	パウル・ティリッヒの神学、特に主著『組織神学』の、歴史的変遷を踏まえた多面的研究、海外におけるアジア神学研究の現状と、そこからの視点から考察する日本の神学の現状と課題
研修先 (国・都市・研究機関等)	ニューヨーク・ユニオン神学校(アメリカ・ニューヨーク)
研修先指導者 (不在の場合は記入不要)	
研修先及び指導者 選定理由	かつての留学先であり、当時の指導教授の推薦によりビジティング・スカラーとして学生寮に安価で長期滞在することが可能であった。また、ボストンやワシントンDCなどを訪れる際の移動の拠点としても適切な位置でもあった。加えて、大学図書館であるパーク・ライブラリーは世界屈指の神学書のコレクションを所蔵しており、特に研究対象であるパウル・ティリッヒの貴重なコレクションを所蔵しているので、研究のためにぜひそれらを利用したいと考えた。以上、選定の主たる理由である。

2. 研修日程

日程	渡航先・滞在地	研究機関名	備考
8月 26日 ~ 1月 14日	ニューヨーク(アメリカ)	ニューヨーク・ユニオン神学校	

3. 研修報告

(1) 実施概要：研修内容(具体的に記載)

1997年度に留学したニューヨーク・ユニオン神学校の当時の指導教授にご推薦いただき、2022~23年度スクール・イヤーにビジティング・スカラーとして招聘していただけることになったので、8月からはニューヨークで、それまでは準備期間とともに、国内でできる作業と研究をするというプランを立てた。

4~8月までは、具体的には、すでに発表済みの海外日本人教会にかんする論文を、一般向けにリライトし、Kindle出版で発表する、渡航してから執筆予定である2本の論文(後述)の、国内でできる準備をするという予定を立てた。

実際は、については、シンガポール日本語教会についての書籍を、Kindleで2冊発表することができた。

については、ユニオン神学校の図書館にティリッヒ『組織神学』第3部~第4部の講義速記録が所蔵され

ていることがわかっていたので、両者の日本語訳と英語原文をチェックし、内容リストを作成し、ニューヨークでの研究に備えた。

ニューヨーク渡航後の8~1月は、大学の寮であるヘイスティングス・ホール210号室に滞在し、大学図書館（パーク・ライブラリー）に日参した。そして、書架に開架陳列してあるティリッヒ自身の著作（講演や説教のタイプ原稿やパンフレットなども含む）をすべて、ティリッヒ関連の著作や論文を可能な限りスキャンし、PDFコピーを作成した。また、この図書館にはオーディオ・コレクションとして、ティリッヒによる講義や講演、説教などの録音テープが100本以上所蔵されていたので、これらも可能な限り（機械的な問題で再生不可能なテープもかなりあった）MP3形式に変換し、コピーを作成した。さらに、予約が必要な閉架のスペシャル・コレクションも、毎週のように予約閲覧し、ティリッヒの講義速記録、講義配布物、新聞記事や雑誌記事などもすべてスキャンし、PDFコピーを作成した。

中でも、講義速記録に含まれていた『組織神学』第3部と第4部にかんする講義は、第4部が収録された『組織神学』第三巻の出版の10年ほど前になされたものであるが、両者のあいだにはかなりの異同がある。そして、この異同は、訪日において経験した「生きた非キリスト教諸宗教との出会いの衝撃」によるという学説があるので、両者を、特に宗教論を焦点として異同を比較し、「生きた非キリスト教諸宗教との出会いの衝撃」という言説が正当なものであるかを考察し、研究論文を執筆した。

それに加えて、司書の方のアドバイスで、ハーバード大学神学部（ボストン）のパウル・ティリッヒ・アーカイブに10月~1月にかけて3回、計10日訪問し、ティリッヒがさまざまな講義で学生に配布した参考図書リストのプリントや、ドイツ時代の「組織神学」のアイデアメモ、出版前の初校以前の原稿など、貴重な資料を数多く入手できた。特に、ギフォード講演の原稿や、『組織神学』完成原稿以前の手書き原稿は非常に貴重なものであり、「組織神学」研究には不可欠であるにもかかわらず、その存在すら知られていなかった。今後、これらの資料を整理し、踏まえた研究を発表していく予定である。

また、サバティカルを機会に、神学校時代の指導教授である大木英夫の神学について考察と評価を行いたいと考えていたが、ユニオン神学校で何人かのアジアからの留学生と交流を持ち、彼らとアジア神学について神学的議論を交わす機会を得た。そこで、この機会を利用して、アジア神学という文脈で、日本の神学としての大木英夫の神学を考察し評価するという形に軌道修正することにした。幸い、パーク・ライブラリーには、日本では閲覧が難しい、アジア神学に関する多くの資料が所蔵されていたので、それらを参照することができた。併せて、かつて大木英夫が手にしたと思われるピューリタン関連の資料の実物も閲覧することができたので、大木英夫の神学的主張の背後にあるものも確認することができた。そして、大木と併せて近藤勝彦の神学も考察対象に含め、アジア神学という大きなコンテキストの中における日本の神学の意義、という視点から論文を執筆した。

神学的研究は以上の2つがメインであるが、ほかに、ワシントンDC訪問、香港日本人教会牧師のインタビューの文字起こしとZOOMによる追加インタビューなども行った。後者については、2023年度中に発表予定である。

さらに、異文化コミュニケーション関連で数年前から注文していたCQ（カルチュラル・インテリジェンス）についても、系列校であるコロンビア大学図書館（主としてバーナード・ライブラリー）にて、多くの関連書籍や論文を閲覧し、入門書のスキャンやPDFコピーを入手することができた。また、CIC（カルチュラル・インテリジェンス・センター）の有料メンバーシップを取得し、いくつかのワークショップに参加した。これらの成果も、それらを踏まえたCQの入門書を執筆し、最初の一冊は2023年度中にKindle出版の予定である。

(2) 研修成果及び今後の進展の見込み

今回のニューヨーク滞在の大きな目的の一つは、日本では手に入らないパウロ・ティリッヒの資料を入手することであったが、その目的は十分に達成することができた。日本では入手が難しい資料（1920年代のドイツ時代の「組織神学」講義、1930年代の「組織神学」講義、1940年代以降のドイツ語で行われた「組織神学」講義、録音記録など）をはじめ、日本では入手はもちろん閲覧すら不可能な資料（1950年代の「組織神学」と「キリスト教思想史」の講義速記録、教室での配布物、大量の直筆のタイプ原稿や手書き原稿など）を入手することができた。これらの資料の整理と分析だけでも大変な作業であり、今後何年もかかるであろうが、日本におけるティリッヒ研究に新境地を切り開く研究となることは間違いない。

すでにその成果の第一段として、1950年講義速記録を活用した「1952年講義録におけるパウロ・ティリッヒの宗教類型論 『組織神学』第三巻との比較」を発表した。これは「組織神学」第4部についての研究であるが、引き続き第3部、さらに第1部、第2部、第5部と研究を進める予定である。

なお、今回入手した資料の中には、多くのティリッヒ自身の手書き原稿も含まれており、これらは業者に依頼して文字起こししてもらわなければ利用が困難であるため、まずは業者の選定から始めたい。

また、ニューヨーク出発前に予定した、大木英夫神学の研究は、現地でアジア神学とアジア神学者たちに触れることにより、アジア神学の文脈における大木神学および日本の神学という、新たな視点を得ることができた。そしてその視点からの研究を、アジア神学の、またアジア神学についての膨大な資料と、かつて大木自身が留学中に参照したレアコレクションを利用して行うことができた。こちらも、ティリッヒと同じく膨大な資料を持ち帰り、その分析には今後かなりの時間が必要であるが、まずは試論的考察を「アジア神学に対する日本の神学の意義にかんする一試論 大木英夫と近藤勝彦の神学を手がかりとして」として発表した。今後、アジア神学と日本の神学については、さらに資料を収集しつつ研究を継続していく予定である。

CQについても、CQ研究のメッカであるカルチュラル・インテリジェンスセンターとコンタクトが取れたので、日本におけるCQの啓蒙活動に少しずつ着手していきたい。その端緒として、異文化コミュニケーションの担当講義科目で使用するためのテキストを執筆することから始め、すでに入門書の執筆はほぼ完了している。今後は、学生からのフィードバックを参考にしながら、アドバンスレベルのテキストの執筆を進めていく予定である。

4. 研修成果物

研修成果物(著書・学術論文・研究発表・演奏会等(予定も含む))の発表時期等

Kindle 出版「世界の日本人教会めぐり シンガポール日本語キリスト教会@2017」(2022年7月発行、bit.ly/3lqsfEC)

Kindle 出版「世界の日本人教会めぐり シンガポール国際日本語教会@2017」(2022年9月発行、bit.ly/3EdEVfz)

論文「1952年講義録におけるパウロ・ティリッヒの宗教類型論 『組織神学』第三巻との比較」(「フェリス女学院大学キリスト教文化研究所紀要」第8号(2023年3月発行)に掲載)

論文「アジア神学に対する日本の神学の意義にかんする一試論 大木英夫と近藤勝彦の神学を手がかりとして」(「フェリス女学院大学キリスト教文化研究所紀要」第8号(2023年3月発行)に掲載)

学会発表(予定)「(仮)組織神学第4部の変遷 1952年講義と『組織神学』第三巻の比較、特に宗教論の変遷を通しての比較」2023年9月、日本基督教学会学術大会にて発表予定

Kindle 出版(予定)「CQ クイックスタートガイド」(2023年9月発行予定)

Kindle 出版(予定)「世界の日本人教会めぐり 香港日本人教会@2018」(2023年2月発行予定)

以後、ティリッヒ関連の論文の発表と学会発表を継続予定。また、商業出版が可能と思われる資料については、キリスト教系の出版社と交渉。

CQにかんする出版も、Kindle で継続予定。